

発刊にあたって

近代中国（アヘン戦争から今日までの中国を指す）は、いくたびかの革命の変革とともに発展してきましたが、とくに近年の情勢は急激な動きを見せています。私たち近代中国の研究者にとっては、この動きを追うだけでなく、その底に流れて中国近代史を貫く本質を究明することが、より基本的な課題であるだろうと考えます。そしてこうした研究が私たちに、今後の中国の発展の方向をより正しく見通すことを可能にしてくれることと思います。

このような現在の私たちに直接かかわりをもつ近代中国研究が、日本において重要な学問領域の一つとして認められるようになったのは、第二次大戦後のことです。したがって当初は、近代中国に関する研究施設は多くの大学できわめて貧弱であり、また比較的豊かな資料を蔵する研究機関は公開されていず、誰でもが利用できる状況ではありませんでした。そこで、1953年以来近代中国研究室を設けて近代中国に関する資料の収集につとめていた東洋文庫は、広く一般の研究者に研究上の便宜を供与して近代中国研究を推進するために、1963年に近代中国研究センターを開設しました。爾来、近代中国研究センターは、従来にもまして資料の収集をはかるとともに、それら資料の館外貸出、各種の蔵書目録や近代中国研究に必要な参考用図書の刊行などをおこなってきました。このような活動の一端に『近代中国研究センター彙報』の発行がありました。ところが、その後、資金その他の面から近代中国研究センターの事業をそのままの形で続けることが困難な状況となり、やむをえず事業を縮小し、『彙報』も1973年12月発行の第16号を以て廃刊しました。

しかし、私たちは、この間、近代中国研究センターを利用する国内外の研究者が年ごとに増加する状況に励まされて、その後もできる限り資料の収集を続け、蔵書目録を刊行してきました。幸いなことに、1977年から東洋文庫の事業の一部として「近代中国特別調査研究」の

プロジェクトが文部省により認められ、ここに、これまで東洋文庫がおこなってきた近代中国に関する事業を継続していく見通しが開けました。現在のところ、まだ、従来の活動を維持することだけで、その発展・拡充については僅かずつの進展にとどまるとは思いますが、とりあえず、ここに情報提供活動の一端として『近代中国研究彙報』を創刊することにいたしました。『彙報』は、今後、年一回発行し、内容的にはかつての『近代中国研究センター彙報』を引継ぎ、内外の研究動向、書評、(新刊図書紹介)、特定のテーマに関する目録などを掲載する予定です。

ところで、日本における近代中国研究もこの二十年間に大きく発展し、それにともなって研究施設も次第に拡充され、近代中国研究に便利な参考用図書などもいくつもの機関で編集・刊行されるようになりました。しかしやはり問題はあります。第二次世界大戦後の近代中国研究の急速な進展は日本だけでなく国際的な趨勢であり、内外で刊行される文献・資料の量も膨大で、全国の研究施設がすべてこれらの文献・資料をつねに up to date に収集することは不可能になっています。また、各研究者がこれらの文献・資料に通暁することも容易なことではありません。したがって、いまや、かつてのような近代中国研究の重要性に対する認識不足からではなく、余りにも膨大な文献量のゆえに、近代中国に関する資料収集と情報提供は、ある一定の機関によって集中的におこなわれることが必要になっています。

以上のような観点に立って、東洋文庫近代中国研究室は『彙報』を発刊し、その他の点においても従来の業績を生かして新たな要請に応じられるよう努力したいと思っています。

近代中国研究委員会